

## 令和元年度第3回江別市地域公共交通活性化協議会開催結果（要旨）

日 時：令和2年1月28日（火）10時00分～11時32分

場 所：江別市民会館小ホール

出席者：北川裕治会長、高野伸栄副会長、竹谷修委員、千葉雄介委員、佐藤憲明委員、三戸部正行委員、横関章委員、小川達也委員、梅本利男委員、山田憲昭委員、鈴木智枝委員、中川雅志委員、種章裕委員、神保順子委員、遠藤雄一委員、杉澤武則委員

※惣万祐仁委員の代理として山崎孝雄氏、佐藤文昭委員の代理として杉浦一秀氏が出席

照井幸一委員、佐藤誠一委員は都合により欠席

傍聴者：1名

### 会議概要

#### 1 開 会

協議事項（1）及び（2）につき、協議会設置要綱の規定に基づき事業関係者として

特定非営利活動法人えべつ江北まちづくり会 菅原昇氏

山崎自動車工業株式会社 山口修氏

ジェイ・アール北海道バス株式会社 渡部征教氏

に出席を求めており、本日出席している旨説明。

#### 2 報告事項

##### 江別市地域内フィーダー系統確保維持計画の変更について

○事務局から説明

昨年6月開催の第1回協議会において「江別市地域内フィーダー系統確保維持計画」を作成し、11月の第2回協議会において当計画が国から認定を受けた旨報告したが、当計画に変更が生じたことから報告したい。

資料1をご覧ください。

変更内容は1枚目中段のとおり、昨年12月のダイヤ改正により、北海道中央バスが運行する該当路線で土日祝日が1便減便になったことに伴い、計画の運行回数及びダイヤ表が変更になったものである。次ページ以降変更部分を赤枠表記している。

その他、計画本編の内容自体に変更は無い。

資料の説明は以上であるが、これに関連し先だって開催された専門委員会において、行政の申請書類は専門的であり、多くの市民には理解しにくいと

思われるので、公表することを踏まえた書類作りを意識すべきだというご意見をいただいた。このような意見を踏まえ、今後申請書類に反映させていきたいと考えている。

報告事項の説明は以上である。

## 【質疑等】

○北川会長

「江別市地域内フィーダー系統確保維持計画」について、軽微ではあるが変更が生じたという報告であった。

以上のことについて、各委員から質問・意見あるか。

【質疑なし】

## 3 協議事項

### (1) 江北地区におけるデマンド型交通実証運行事業について

○事務局から説明

まず、前回協議会での報告を簡単に振り返る。

1点目として、冬期間の利用に比して農業繁忙期は利用が半分以下に減ったこと。

2点目として、現在の実証運行許可期間が本年3月までである為、4月以降の運行について、江北まちづくり会としては、これまでの実績や地区住民アンケートの結果をもとに、制度設計を見直したいとのこと。

3点目として、国においてタクシーを活用しやすくするための法整備を進める方針が打ち出されているため、関係者間では、事業者が乗合の許可を受けるのではなく、もう1年間実証運行の許可を受けたいという方針になったこと。

4点目として、江北まちづくり会で制度設計の見直し案をまとめるので、次回協議会において協議をお願いしたいというものであった。

以上を踏まえ、今回は江北まちづくり会でまとめた制度設計の見直し案を協議会として了承するか、協議をお願いしたい。

まず、資料2-1をご覧ください。

前回も示した資料であるが、12月までの利用実績を掲載している。12月に入り、また利用が増えたが全体の傾向は変わっていないことが確認できる。

次に資料2-2及び2-3をご覧ください。

制度概要に関する資料であり、資料2-2は現在制度との新旧対照表、資料2-3は見直しを反映した制度概要書（案）になる。

資料 2-2、①会員登録対象者であるが、基本的には現行と変わらないが、④その他（江北まちづくり会として必要と認める者）を加えようとするものである。資料 2-3、2 ページも合わせてご覧いただきたい。

背景として、60 歳未満で三大疾病を患い通院が必要な住民の事例や、冬の運転に心配のある買物困難者からデマンド型交通の利用を相談された事例について、関係者間で協議した結果、前者は利用できることを重ねて明示、後者は会員制度の趣旨にのっとった利用であれば 60 歳未満でも認めるようにすべきということになったことがあげられる。

続いて、資料 2-2、②市街地側乗降場所であるが、運行以来全く利用の無かった 2 か所の乗降場所を廃し、アンケートで要望の強かった商業施設として、江北地区に近いホクレンショップとコープさっぽろを加えようとするものである。運行区域図も参照いただきたい。

続いて、資料 2-2、③運行日であるが、これまでの平日 4 日に土曜日を加え、週 5 日運行にするというものである。アンケートでも土、日どちらかという意見があり、病院が午前中やっている土曜日を加える方向である。

続いて、資料 2-2、④運行便についてだが、往路については病院利用者からの要望もあり、多少出発時間を早め、午後から出発する第 3 便も含め、すべて午前中に出発するようにしている。復路便については、アンケート結果を踏まえ 1 便増便し、最終の第 7 便が 17:00 頃市街地を出発する、2 時間おきに計 4 便を設定する見直しになっている。

続いて、資料 2-2、⑤予約受付についてだが、現行では、前日の 15 時までに予約を入れる必要があるが、これを 17 時までにするというものである。また、特に病院利用者から、込み具合により帰りの時間が見通しづらいという意見が多く寄せられた為、復路便に関しては予約している方が当日に変更できる運用を始めたいとのことである。

変更点は以上 5 項目であり、新しい実証運行期間は、令和 2 年 4 月 1 日から令和 3 年 3 月 31 日までの 1 年間である。

江北まちづくり会ではこのような変更を加えたうえで運行を継続したいと考えている。このため、運行業務を受託する山崎自動車工業が以上のとおりの地域と期間により、乗合旅客運送の実証運行を実施することについて、協議をお願いしたい。

説明は以上である。

## 【質疑等】

### ○北川会長

江北地区のデマンド型交通につき、令和2年4月から1年間、制度概要書（案）のとおり実証運行を行いたいのので、協議願いたいという説明であった。

このことについて専門委員会でも事前協議が行われた。専門委員会の際にいただいた意見などがあれば、専門委員会委員長の高野副会長から補足説明を願う。

### ○高野副会長

専門委員会における議論について紹介させていただく。

まず、実証運行を継続することは賛成である。

資料2-2の新旧対照表の見直しについて説明があったが、乗降場所を利用実態に合わせて見直す。運行日に土曜日を追加する。運行時間について往路は午前便にするとともに復路は17時という遅い便を設定した。予約受付が従来15時までだったものを17時までにし、復路に限っては当日変更が可能となった。

今回の協議会と専門委員会の際の資料は異なる部分があるが、①会員登録対象者について、妊婦や乳幼児のいる方を明記する、障がい者等の定義として、障害者手帳を持っていない方も認めるべきという意見が出た。障害者手帳の提示や疾病内容を聞くことはプライバシーの観点から柔軟な取り扱いをされるべきであり、今回の資料では、妊婦、乳幼児のいる方、身体が不自由な方、通院が必要な方、買い物困難者等と記載されている。また、通勤・通学の利用は認めないと分かりやすく記載されている。

一方で、会員登録は個人ベースだが、世帯での登録を認めるべきという意見が出た。現状の令和元年ベースでは、登録者76名のうち利用者が14名であり、利用者以外も登録している方が多いので、サービスの範囲を拡げすぎると事業としての成立性に関わるので、慎重に議論すべきという意見が出た。

いずれにしても利用者にとってはこれまで以上に利用しやすい、きめ細やかな見直しになっており、専門委員会の意見についても明記されている。

### ○北川会長

専門委員会で活発な議論があった。基本的な方向性は固まっているように感じた。

出席いただいている、関係事業者から補足の説明はあるか。

### ○江北まちづくり会 菅原氏

一昨年12月から山崎自動車工業と連携して江北地区デマンド型交通の運行を開始させていただいた。事業者によるデマンド型交通の運行は江別市内

では初めての取組であり、当初は大変であったが、実証運行をして地域としても喜んでいるところである。1年間山崎自動車工業と運行の実績を積み重ねるとともに、地域住民のアンケート結果や利用者である自治会、運行している山崎自動車工業から意見をいただき、利用のニーズの利便性を図ってきたが、様々な提案、質問など積み重ねたことが良かった。

今後もこの事業を持続させていくためにデマンド型交通の性格を考えながら合理的な運用が出来ると思っており、見直しをしながら運行していきたい。今回は初めての見直しとなるが、事務局の説明のとおり5項目について制度の修正を加え、利便性の向上を図っていきたいと考えている。また、専門委員会の意見をいただいたが、大変参考になるので、実際の運用に反映させ、より良い考えの中で気づき、支援をいただけると幸いである。

今後、長く続けられるよう努力していくので、皆様の支援と山崎自動車工業の協力をいただきながら4月1日以降も1年間の実証運行の実施につなげて行きたいと考えている。

○北川会長

札幌ハイヤー協会の照井委員が欠席しているが、事務局として札幌ハイヤー協会の意見は伺っているか。

○事務局

本日、タクシー業界の北海道全体の会議が開催されるということで、照井委員が欠席しているが、本日の会議資料により札幌ハイヤー協会としての意見を事前に伺った。協会としては、山崎自動車工業が事業者として対応できる範囲の中で実施しようとする事なので、異論は無いとのこと。

○北川会長

事業運行者として、山崎自動車工業からこの1年間運行した感想や課題などあるか。

○山崎自動車工業 山口氏

デマンド型交通を始めて1年が経つが、運行に対して皆に協力していただき、スムーズに運行している。事前の予約をして運行を行っているが、時間などが守られているので、今後も協力したいと思っている。

○北川会長

地域の理解をふまえて運行自体は順調に進んでいる。

この件について、各委員から質問、意見はないか。

○遠藤委員

資料2-1の利用者数（曜日別）について、昨年度と比べて月曜日と木曜日の落込みが多いと思う。利用者の行動様式が変わって変化したのか、利用しにくいために利用者が減ったのかが気になった。特に昨年度は木曜日の利

用が多かったが、今年は雪が少ないこともあり、通常の冬の行動と違う可能性があるが、理由が知りたい。

○北川会長

12月をみると、去年は月曜日と木曜日が多く、今年は火曜日と金曜日が多い。

○江北まちづくり会 菅原氏

当初、12月3日から運行を開始しながら地区住民にPRをしており、利用率アップにつながっていると思っている。

また、約1年過ぎて利用率が下がっているが、今回の暖冬を含めて冬場の運転が嫌だという傾向の中で、夏場は自家用車を使って市街に行くことが多いので数字が下回った結果だと感じている。改めて話は聞いていないが、このような印象を受けている。

○北川会長

不特定多数の方が利用しているわけではないので、病院に通う曜日が変更になるなどあるかもしれない。運行上の課題になっていないと理解していただきたい。

他に質問、意見はないか。

○梅本委員

資料2-2の⑤予約受付では、利用しやすいように予約した復路に限り当日の変更を可能にするという話だった。資料2-3の制度概要には他の修正点は記載されているが、この部分の記載はない。利用者に対してどのように周知するのか。

○事務局

制度を変えて一部運用を変更することをふまえて、江北まちづくり会で利用者や会員に対して周知活動を行っていくことになる。今後、江北まちづくり会とどのような方法でPRするかを協議しながら進めていきたいと考えている。人数はそこまで多くないので、個々にチラシを配る、説明会を開催するなどの方法が考えられる。

○北川会長

新年度の会員募集もあるので、様々な機会を通じてPRを深めて行きたいと思う。

他に質問、意見はないか。

○鈴木委員

往路で目的地まで行く際に500円を支払い、次の目的地に移動しそこから復路のタクシーを利用している方がいると考えられる。最初の目的地で降りた際に次の予約が入っていなければ、もう1度次の目的地まで利用するこ

とはできるのか。

○江北まちづくり会 菅原氏

登録をしていただく際に、この制度について70名近くの方に直接デマンド型交通の趣旨を説明させていただいた。1年間にそのような話もあったが、予約の部分から次の目的地まで又乗りすることは基本的に認めていない。市街地内での移動には、バスやJRなどの公共交通機関を利用して移動することを理解していただいた。

あまり幅広く柔軟に対処をすると、取りとめなく意見が出るので、基本的な部分だけを理解していただき、デマンド型交通を利用するようお願いしている。そのため、時間帯が合わなければデマンド型交通とは別に個別に帰っていただいている。

○北川会長

運行しているタクシーの乗務員とどう話をしているかは別として、デマンド型交通の趣旨として理解していただく。

○鈴木委員

次に、江北地区の中島や八幡など遠い場所から市街地までタクシーの料金はいくらくらいかかるのか知りたい。

○江北まちづくり会 菅原氏

タクシーを利用して八幡の一番奥から野幌まで行く場合、4千円から5千円だと聞いている。途中の場所についても2千円から3千円かかる。篠津の松崎商店周辺から野幌に行く場合は2千円から2千5百円かかるので、美原の奥からならば4千円から5千円かかる。

○北川会長

他に質問、意見はないか。

○各委員

なし

○北川会長

他に質疑等がなければ、委員の皆様にお諮りする。

この度示された、制度概要書（案）に基づき、山崎自動車工業が乗合旅客運送の実証運行を実施することについて、当協議会として了承する旨協議が調ったということによろしいか。

○各委員

了

○北川会長

江北まちづくり会、山崎自動車工業、事務局においては、4月以降の実証運行に向けて、準備を進めていただくようお願いする。

## (2) ジェイ・アール北海道バス株式会社の江別駅周辺地区における運行系統増設案について

### ○事務局から説明

前回協議会でも説明をした、ジェイ・アール北海道バスが4月1日実施を想定した、江別駅周辺地区における運行系統増設案について、協議会として了承するか、協議をお願いしたい。

資料3をご覧ください。前回から更新、追加されている箇所があり、下線を引いている。以降、適宜説明していく。

4ページをご覧ください。

前回説明した、新札幌駅と市立病院を結ぶ増設系統（ピンク色）が（仮称）新27となり、既設の新26系統（紺色）から振り分けられる概ねの運行便数が示されている。

5ページをご覧ください。

こちらも前回説明した、市立病院を起終点としてゆめみの地区とを結ぶ、循環型の増設系統（赤色）が（仮称）循環江95となり、前回説明では江25というゆめみ野地区と江別駅を結ぶ系統（紫色）を残すという案だったが、すべて新25という新札幌駅までの系統（青色）に1本化する。

その為、6ページに示したが、平日の6～7時台は新25でゆめみ野地区から新札幌までを結び、7ページに示したように平日8時以降は（仮称）循環江95がゆめみ野地区と市立病院を循環型で結ぶ。便数としては、現行の江25と同程度の13便を運行するイメージである。

また、現在1便ある夜間の新25の復路については前回説明同様運行しない。

8ページをご覧ください。新たに追加された資料で（仮称）循環江95のバス停名と停車順を表示した。また、路線名に付き、新25と（仮称）循環江95は「江別線」から区分し「（仮称）ゆめみ野線」に変更する予定である。

新設するバス停について、市立病院についての追加資料が10ページになる。現在、北海道中央バスのバス停が設置されているすぐ横に設置する予定である。また、今回の増設系統は市立病院が起終点となるため、ロータリーの近くに車両待機場を確保する予定である。

最終11ページをご覧ください。

江別駅前ロータリー内にあるバス停については、前回説明でも安全確保及び定時運行の観点から、ロータリー外へ移設する方針が示されていたが、国道方面行のバスの乗降については水道庁舎前、また国道方面から江別駅を終着とする便の降車は、現在北海道中央バスのバス停が設置されている隣に移設する予定である。

また、バス停名も「江別駅」から「江別駅前」に変更する。

説明は以上である。前回報告とおり、今回の案は市の再編実施計画による見直しでは無いが、ジェイ・アール北海道バスが、数ある課題の中から短い時間で取り組むことのできる利便性向上策として、本年4月に実施したいとのことであるので、この旨協議いただきたくお願いしたい。

### 【質疑等】

#### ○北川会長

前回協議会でも報告のあった、ジェイ・アール北海道バスの運行系統増設案について協議願いたいという説明であった。このことについて専門委員会でも事前協議が行われた。専門委員会の際にいただいた意見などがあれば、専門委員会委員長の高野副会長から補足説明を願う。

#### ○高野副会長

専門委員会における議論について紹介させていただく。

資料4ページでは、市立病院に行くことが可能になり、その概ねの本数が示された。7ページではゆめみ野地区の8時以降の便が循環線となり、ゆめみ野地区の方が市立病院や逆方向に行くことが出来るので、利便性が高まるという意見が出ていた。しかし、10ページでバスの待機場を敷地内に設置することについて、市立病院の駐車場が不足気味であることを考えて、一般車の駐車場が不足するのではという懸念の声もあった。

次に、11ページの江別駅周辺のバス停の移設について、現在は駅前ロータリーに送迎車が駐車していることが多く、路線バスが入ることが出来ない状況が頻発しているため、今回のバス停の移設案の趣旨は理解するものである。一方で、移設後のバス停が江別駅から100m程度離れることになり、特に冬期の路面やバス停の待合環境の面から、一時的ならば我慢をせざるを得ないが永続的に行うのはいかがなものかとの意見が複数の委員から出た。駅前のロータリーや広場が不足しているので、市が駅前広場の見直しを早急に行い、一般車とバス停の共存が出来る形にし、バスの利用者の利便性を損なわない形で見直しを行うべきであるとの意見が複数の委員から出た。

#### ○北川会長

出席いただいているジェイ・アール北海道バスの担当者から補足説明はあるか。

#### ○ジェイ・アール北海道バス 渡部氏

江別市内のバス路線を運行している厚別営業所のダイヤを担当している。今回協議いただくにあたり、バス事業者としての考えを話させていただく。

1 点目、市立病院の乗り入れについて、以前から野幌や大麻方面の 1 2 号線沿いの地域から市立病院へのアクセスの問い合わせが来ていた。江別 3 丁目や江別 4 丁目のバス停を案内しており、距離としては特別遠くないが、バスの拠点となる十分な施設と考えて、今回江別駅行の便を一部振り分けて運行したいと考えた。

2 点目、ゆめみ野地区の経路変更について、現在は江別駅から発車した便は終点がゆめみ野東町、始発地は上江別公園となる。発着地が異なるので分かりづらい路線ではあるが、それを解消するために分かりやすい路線に改めたい。また、ゆめみ野地区や上江別地区は江別駅から近くも遠くもない距離なので、冬期や雨の日は多くの利用はあるが、天気の良い日などは利用していただけていない状況もある。事務局の説明にあったとおり、午前や午後の空白時間帯を往復運行することにより埋められるので、沿線住民の方の乗車機会が増えることを期待して、今回の変更となった。

江別駅の乗り場の変更については、ここ 10 年弱で駅から離れたエリアの宅地造成が進んだため、自家用車での送迎が増したと感じており、ここ数年は特にバスの発着に目立って支障が出るようになってきている。列車が到着するまで自家用車が動かないので、ロータリーに入ることが出来ない、バスの発車時刻に身動きが取れないなどの状況が度々起きており、事故やトラブルも少なからず発生している。

バス停は駅の直近にあり、利便性が高く良かったが、先程の理由から安全性や定時性と利便性が両立することが難しいので、今回の移設に至った。列車との乗継ぎの場所としてはバス停をどの場所に移設したとしても利便性が低下することは避けられないが、一方でスムーズな運行により定時性の向上が図られるので、野幌や大麻方面で途中乗車する方にとってプラスに働く面もあると考えている。

全体を通して利便性を高める手法として、増便することが出来ると良いが、近年常に乗務員が不足している状況である。乗務員が集まらないことは事業者側の問題であり、利用者には関わりのないことかもしれないが、新たに便を増やすことは難しい状況が続いている。

今回の変更については、全ての利用者にとって最善なものではないが、持てる力で少しでも利便性の向上を図れるよう計画し、実施したいと考えている。引き続き関係機関の方に協力をしていただき、市内の公共交通の事業者として他事業者とともに役割を果たしたいと思っているので、今回の変更については理解を賜りたい。

○北川会長

この件について、各委員から質問、意見はないか。

○遠藤委員

市立病院まで行けるようになることは、良いと思う。周囲からもそのような声が出ていた。

江別駅前バス停の移設について2点お願いがある。

1点目、毎日バスを利用する方は分かると思うが、年に数回しか利用しない方はバス停を移動したことに気が付かないと思う。特にこのバス停の位置は見えない可能性があるので、1年程度周知する試みをお願いしたい。

2点目、水道庁舎前のバス停に行く際に、江別駅から横断歩道まで緩やかな下り坂になっている。冬にアイスバーンになった場合、高齢者は危なく、急いで転ぶこともあるので、滑らないように砂や融雪剤をまくことを検討していただきたい。

○北川会長

関連して質問、意見はないか。

○種委員

今回のバス停の移設はやむを得ないが、駅前にある北海道中央バスの既設のバス停は交差点の中にある。警察の目線で、交通安全の観点で見るとどうなのか。

○山田委員

江別市で初めて見たケースである。どのような経緯でこのバス停が設置されたかはわからないが、交差点内なのでバス停の位置としては好ましくないと思う。ただし、他の改善策はない。この状況では根本的に道路を変えるなどの方法しかないと思うので、将来の広場見直しの際に一緒に整理してほしい。

○北川会長

このような会議はそのためにある。JRの駅長がいるので、バス停の移設がすぐ分かるように駅舎で工夫してPRしていただき、足元の部分については市の道路管理課とともに考えなければならない。また、交通安全については警察の意見をいただく。引き続き課題はあるが、専門委員会を含めて再認識されている。これらを踏まえつつ、当面はこの形で進んでいると理解いただきたい。

この部分について、事務局から発言あるか。

○事務局

今回ジェイ・アール北海道バスの停留所が江別駅構内から外に出ることについて、江別駅前広場全体をどうするか早急に考えなければならない。これは専門委員会においても安全性の確保や停留所の位置についても意見をいただいた。

江別市は江別駅前と周辺地域の整備、再開発については非常に大きな課題として捉えている。江別駅は拠点のひとつと位置づけられており、この機能が十分発揮できるように整備することはまちづくりの今後の大きな課題だと認識しており、その役割は江別市が担うものだと考えている。野幌駅の再開発がおおむね終了するので、市長も折に触れて今後は江別駅の整備に取り組むと申している。整備に当たってはロータリーの部分の土地の取得、複雑な道路、交差点の形状、ロータリー上の三角地、駅前の公園の整備、交通安全の部分との協議など整備すべき課題が多くある。時期に関して明確に名言出来るものではないが、今回の協議会でもたくさんの意見をいただいたので検討していきたい。

○北川会長

ハードの整備を伴い、様々な規制や課題を精査しなければならない。今回の専門委員会や協議会での意見をふまえて市で検討することを理解していただきたい。

他に質問、意見はないか。

○小川委員

都心部のロータリーはタクシーやバス以外は進入禁止、駐停車禁止になっていることが多い。公共交通が原則的にロータリーで優先されるのが全国でも一般的なもので検討していただきたい。これだけ広い放射状になっている道路は東京の田園調布や自由が丘にもある。小さなロータリーではなく、五方向から来る大きなロータリーにすることもひとつの方法だと思う。

ソフト面について、見知らぬ土地に行った際には、そこからのバスが分かりづらいので、自費でタクシーに乗ることがある。複数のバス事業者が入っている駅前なので、通し番号を付けるなどで案内表示にすると外国人にも分かりやすく、番号のみで行き先が分かるようになるので、総合的な交通体系について他自治体の事例を参考にしていきたいと思う。

○北川会長

専門的知見、経験から提案いただいた。事務局が中心になりながら対応していきたいと思う。

その他、全体を通して質問、意見はないか。

○各委員

なし

○北川会長

他に質疑等がなければ、委員の皆様にお諮りする。

この度示された、ジェイ・アール北海道バスの江別駅周辺地区における運行系統増設案を実施することについて、当協議会として了承する旨、協議が

調ったということによろしいか。

○各委員

了

○北川会長

それでは、ジェイ・アール北海道バスにおかれては、運行系統増設に向けて準備をすすめていただくようお願いする。

### 3 その他

○北川会長

各委員から何かあるか。

【質疑なし】

事務局から何かあるか。

○事務局

本日机上配付させていただいている「江別市バス運行情報ニュースレター」は平成30年9月に路線変更内容をお知らせする為に作成したもののだが、本日協議が調った、ジェイ・アール北海道バスの系統増設に関しても、同様の物を作成し、広報誌に折り込み市内各世帯や、駅・公共施設等での配布を考えている。ダイヤ等が確定するのが2月末とのことなので、3月に作成することになると思うが、委員の皆様からも作成に関し、意見やアドバイス等あれば、事務局へお寄せいただきたい。

次回協議会については、3月頃の開催を予定している。現在、案件等の調整を行っており、詳細が決まり次第、連絡させていただくので宜しくお願いしたい。

事務局からは以上である。

○北川会長

その他、事務局より情報提供等あったが、各委員より質問、意見あるか。

【質疑なし】

○北川会長

質疑等なければ、以上で終了するがよろしいか。

○各委員

了

### 4 閉会